

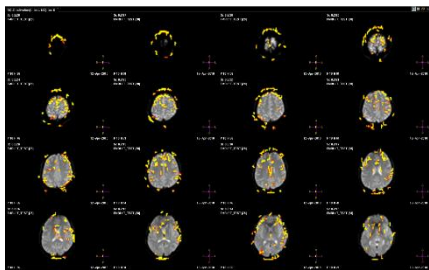
はじめに

訪問診療に興味ない先生と歯科保険点数を増やしたくない人は読まないで下さい。しかし、「万が一」、自分や家族が脳梗塞になったらどうしたら良いか心配な人は読んで下さい。**脳梗塞の発症後早期の診断・治療を除けば、リハビリ治療は歯科医師、Dh がするべきと言ったならば医師法違反になるのでしょうか？** 診断（後遺障害の部位の指摘を除き）・投薬をしなければ微妙な所です。脳梗塞後遺症は脳に問題があり手足の諸器官は脳からの指令が来ないだけです。後遺障害こそ歯科医が何とかして脳の再構築を図るべきです。

脳梗塞後遺障害で苦しむ

どんな名医であっても脳梗塞は早期発見を除けば治せません。自然治癒のみです。オリンピック開催式の聖火伝達式に巨人軍名誉監督の長嶋さんが出演されました。長嶋さんは脳梗塞発症後に最高の治療と最先端のリハビリを10年以上続けたとメディアで紹介されました。残念です。伝達式の姿でも後遺障害は全く改善していませんでした。市民には、脳梗塞の後遺症はどんなにお金を払っても、どんなに頑張っても効果が期待できない事を確認させました。気の毒だな~と言う気持ちと頑張れの拍手でした。私も19年前に脳梗塞を発症しました。分かった時は頭の中は真っ白になり、満足な生活はもう不可能だと未来に絶望しました。誰もが脳梗塞になると半身が動かなくなるので同じ気持ちになる筈です。

口輪筋を含めて表情筋と脳活性化の因果関係



表情筋の波及効果は不明、未確認です。しかし、パタカラを嵌め数秒後 f-MRI で調べると左図の様に次々と脳の活性化が始まります。右図は釧路湿原写真です。

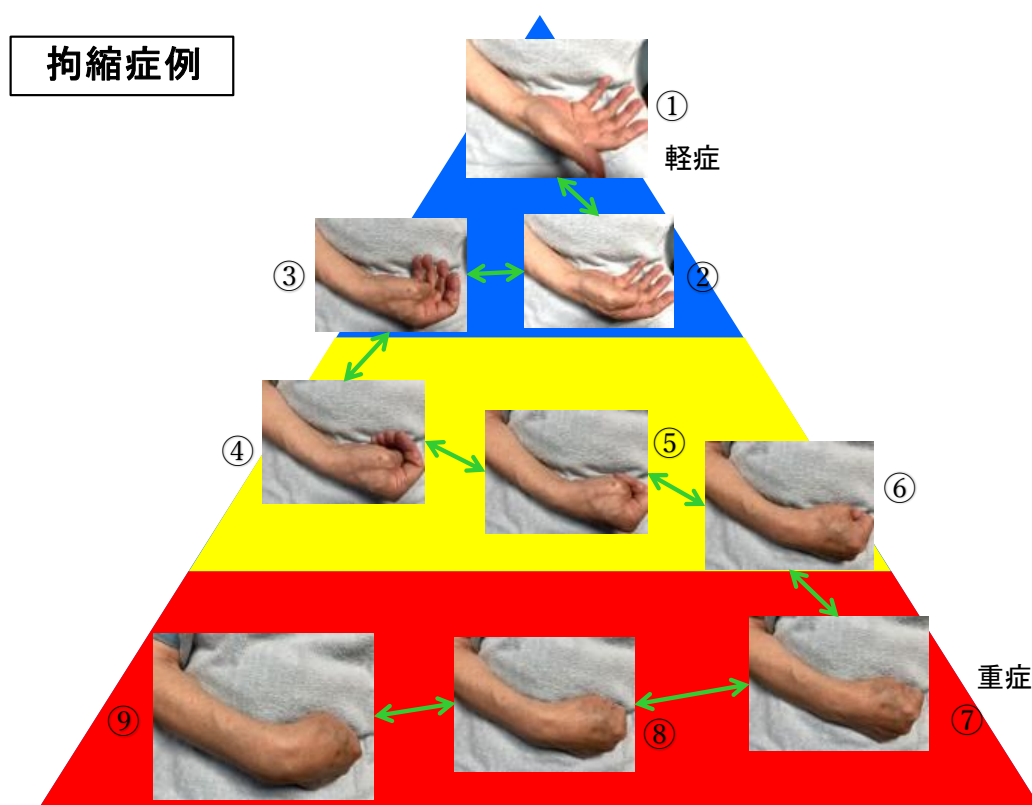


降雨後一気に湿原水位は上がり、大湿原へと変化します。湿原の下は足が抜けない程ぬかっ
ております。脳内と自然界の湿原の状況との科学的なメカニズムは同じです。脳内に脳血流
が一気に増えると活性化される事も f-MRI で確認されている報告はありますが、それが脳
内でどういう意味を持って居るのか・変化が始まるのか誰からも報告がありません。

手の拘縮

次の数枚の写真は私が19年程前に脳梗塞を患った際の記憶に基づく手の拘縮を再現しました。常に右側前頭葉から始まる脳血流の増量に伴い段々と正常に成ろうとします。臨床での手の拘縮状況は脳の改善状況と相関すると私は考えます。患者さんの拘縮状況と参考図とを比較すれば患者さんは今自分自身が何処にいるのが推測でき、次の目標が浮かび上がり、モチベーション持続は日々の努力とその効果でさほど難しい事ではありません。体験の為に、パタカラ・フレイルを先生から患者さんに一つ無償提供して下さい。患者さん

はパタカラが高価である事を知っておりますから、先生の**優しさと治癒への自信の程**を感じます。訪問診療は治療費が高額で継続診療出来れば、安定経営に付与します。どんな脳梗塞後遺症でも使用を続けると微かな兆候を感じます、事前に感じをお話しておく楽しみでリハビリを励んで下さいます。兆候を感じたら、変化は吉報の知らせですとお知らせしておくべきです。手の拘縮が緩解するに連れ、自分の事は自分で始末できるので、家族の補助も軽減されます。止めに、訪問時に口唇閉鎖計で数値目標が建てられるとより具体的です。



おわりに

高齢者社会とは周りにいる介護者をも減少することを意味します。要介護者を1人減らすと数倍の支援者を減らせて事足ります。要介護者を減らす為には高齢者ご自身の脳の老化防止です。その為には日頃から口唇閉鎖力を鍛えて脳血流の増量を図るべきです。歯が未萌出の乳児の脳は母親の乳房を嘸む事で脳血流の増量を図り、脳機能の完成を準備します。筋組織はそれぞれが共調した役目を持ち、どの筋だけが最重要という訳ではなく、敢えて順番を付ければ栄養を余り必要としない乳児期は咀嚼筋の働きよりも表情筋（脳の働きの為には口輪筋が主役となります）と呼吸筋の働きが最重要です。幼児期へと発育するに連れ咀嚼筋と呼吸筋が主へと変わって参ります。人も成熟期を過ぎて老年期になると脳への血流も減少します。脳梗塞後遺障害改善には筋力増強と同じ様に取り組むのは成果が上がり難くなるので、脳血流増量の為に、柔らかなパタカラ・フレイルを開発しました。